

【2 月度定例会】 2018 年 2 月 10 日(土)

理事	高野(高野デザインプロデュース)		秋葉(秋葉建設)		
会員	久保田	近藤(近藤商事)	初芝	藤田(藤田建築)	立川
	竹中(竹中修建築設計室)	川砂(do.建築工房)	初芝(真)	城	阪本(アヴィスト)
	秋葉(拓)	佐々木(佐々木建設)	石橋(石橋材木店)		都澤
オブザーバー					

参加者 8 名

定例会 13:30~16:30

■ はじめの言葉

本日もよろしくお願ひします。(秋葉)

■ オブザーバー自己紹介・会員近況報告

- 久保田：近藤さんの古民家 café (蔵の家) に行き、じっくりと建物をみて過ごしました。
- 阪本：去年は IT 導入の補助金関連の仕事をしていましたが、今年も補正予算が通ったようです。
 個人事業主や開業予定の方の対象 (会計ソフト導入なども可)
 ・ 13 万 5 千社の利用を想定し 2017 年度補正予算にて 500 億円を計上。
 ・ 一社当たりの補助上限額が 50 万円、補助率 1/2
- 城：先月の定例会で報告した“全国の茅葺民家リスト情報”を送ってもらえたことできた… (一財) 都市農山漁村交流活性化機構 <<https://www.kouryu.or.jp/>>
 H14 年度での推定茅葺古民家は 5 万棟 (各自治体からの報告による)
 …鉄板が被せてある茅葺も含む
- 近藤：野菜ソムリエが店を出したいということで蔵を店にするプランが浮上したので蔵を勉強しようと思っています。
 他にも大網駅徒歩圏内の敷地 1500 坪、古民家ありの土地を売ってくれないか? という案件などもあります。
- 秋葉(拓)：公共工事の書類に苦戦しています。木造の小屋組 (仕口や寸法の根拠提示など)
 納まりなどは大区ごとに言い伝えられていることも多く、
 様々試したうえでの結果が根拠になっている
- 秋葉：年度末に向けて忙しくしていますが、久しぶりに会えるのがうれしく思います。
- 都澤：年 FB で見つけた畳イベントに参加予定、楽しみです。
 → ミニ畳の工作と、食べる畳の体験 (千葉市の堀江畳店)

■ 最新情報

- 千葉市緑区の古民家相談

- ・ 銀行からの紹介（活用法はないか？）
- ・ 千葉市おゆみ野の城に仕えてきた子孫で敷地内にある古民家
- ・ 空き家になって 20 年、壊すか壊さないか？活かす場合は費用がかかるが現状放置しておいても困ることはない。

■ NIPPONIA 飯高檀林門前町ホテル（仮）の開業に向けて：ゲスト平山氏

- NIPPONIA とは

- ・ 一般社団法人 NOTE が手掛ける地域創生プロジェクト。
縦に伸びるホテル型ではなく、横に広がる町全体をホテルにするコンセプト。
古民家はリノベーションではなく“元の形に戻す”が基本（シミもそのまま残す）
- ・ NIPPONIA 篠山城下町…城下町全体をホテルに、というコンセプト
- ・ 集落丸山…兵庫県篠山市にある限界集落、NPO の立ち上げにより観光化に成功。
- ・ プラン設計は才本謙二さん一人で行うことで、コンセプトがブレずに遂行できる

- ・ 丸山集落古民家宿の特徴
→豪華ではないが清潔感がある/薪ストーブ/お風呂は UB など作りこんでいない
→インバウンドだけではなく地元の人にも愛されているフレンチレストラン
集落丸山は NIPPONIA 篠山城下町との連携(車で 10 分の距離)で独自性を発揮。

- NIPPONIASAWARA 概要

- ・ 2018 年 3 月 30 日開業
- ・ 佐原の街並みを中心とした古民家・遊休施設等の改修による経営、地域の情報発信、地元産品を活用した 民芸品・飲食品の開発・製造・販売

- 飯高檀林門前町ホテル（仮）概要

- ・ 平山氏は上記事例を参考に、NIPPONIASAWARA と古民家平山邸を含む飯高地区の連携を目指す。
- ・ 飯高檀林地域、現在は平山さんのみだが将来的に広げていきたい
→周辺 Shop
 - ・ パン屋【まるさんかくしかく】<https://www.marusankakushikaku.club/>
 - ・ cafe【The Hive and Barrow】<http://www.hiveandbarrow.com/>
 - ・ 匠瑳市焙煎珈琲【ドウ ムートン】<http://www.deuxmoutons.com/index.html>
- ・ 古民家平山邸のリソース…築 130 年古民家、周辺里山、スタジオ
- ・ 宿泊施設へ向けて…ミニキッチンスタジオ設置、トイレ改修など
- ・ 4 月から徐々にスタートし、ブラッシュアップしながら運営
- ・ 助成金の活用により、事業計画や毎年の収支報告が必須となる。
- ・ 農水省の農泊を活用し農家民宿を計画
※『農泊』でインターネット検索すると詳しい概要が見られます

● NIPPONIASAWARA 工事中の視察報告

- ・ 借り上げ物件…大家には税金が上がった分だけ支払い。期限が来たらそのまま返却
- ・ グローバルスタンダード、20代のスタッフがキビキビと働いている
- ・ 最終計画は20の施設を運営する
- ・ 気軽に泊まれるバックパッカー用の宿泊施設（ドリトミー）もある

● なぜ古民家にこだわるのか

- ・ 地域集落の過疎化、限界集落へまっしぐらだが、子供や孫に当ても無い。先祖が残してくれたものを残していくには『こういう動き（選択肢）しかない』と決心した。

平山さんが取材された時の新聞記事



神秘的な雰囲気漂わせる巨木
スタジイのそばに立つ平山さん

安久山の大シイの木 (匝瑳市)

多古町境に近い匝瑳市安久山の田園地帯。道路を入った古民家の庭に、シイの木の種類「スタジイ」が息づく。高さ約25メートル、幹回り約10メートル。市の天然記念物「安久山の大シイの木」だ。

詳しい樹齢は不明だ。家主の平山喜人さん(62)は約10年前、樹木医から「樹齢は1000年にとどまらず、2000年とも推定される」と言われたという。氏神や稲荷がまつられた

神木とされ、親からは登らないように諭された。だが、小学生時代は友人とこっそり登っては眺望を楽しんだ。「子供の頃から自慢の木でした」

シイの木では県内最大で、市内有数の巨木として1995年に市天然記念物に指定された。活用方法を調査した財団法人「日本ナショナルトラスト」が、庭を愛好家らに見てもらおう企画を提案。平山さんは里山保



安久山の大シイの木

全などに取り組む団体「N・G・S・ジャパン」(東京)に持ちかけ、2004年、スタジイと明治時代に建築された古民家を公開するチャリティーイベントを

開催した。

庭の公開イベントは周辺民家にも広がり、毎年5月にはスタジイなどを見に、多くの人が訪れる。入園料の一部は福祉活動に寄付される。同団体の谷口多美江代表は「誰かのために役立つお金を生み出すスタジイは素晴らしい存在」と話す。「ゆつくりスタジイを見たい」「古民家で食事をしたい」といった声に答え、平山さんは今年5月、古民家の日中の貸し出しを始めた。調理や近くの日本料理店からの出前もできる。これまで約80人が利用し、「スタジイの姿や古民家の風情に感動した」と好評だ。

静かにたたくすんできたスタジイが、今では地域の人を結ぶ核になりつつある。「私にも地域にも、残していかねばならない大切な財産」と平山さんはいう。

スタジイの見学は維持管理費200円が必要。古民家貸し出しは有料。問い合わせは、平山さん(090・5311・6799)へ。

(加瀬部将嗣)

古民家の神木人々集う